

2026 年度明治大学法科大学院 I 期入試〔小論文〕出題趣旨等

I 出題趣旨

渡邊雅子『論理的思考とは何か』（岩波新書〔新赤版〕、2024 年）から抜粋した論説に基づき、法律文書の基本となる三段論法を支える論理はどのようなものかを正確に読み取ることができるかどうかを問うとともに、三段論法を正しく理解できているかどうかを検証するための択一式問題を出題することにした。

II 採点基準

設問 1

演繹的推論（その代表が三段論法である）とは、「既知の真とされていること（大前提）から未知のことを推理する（結論を導き出す）こと」又は「一般的、普遍的に正しいとされる大前提から、個別具体的な結論を得ること」であるという著者の記述を読み取り、その具体例を論説から抽出できていること。

設問 2

説得（レトリック）と演繹的推論との最も大きな違いとは、「論理学では、文と文の関係を形式的に取り出すことで、文脈や価値観に左右されずに推論の形式から結論の真偽を決定する。それに対して、レトリックが扱うのは価値判断である」と記述されていることを読み取り、その具体例を論説から抽出できていること。

設問 3

裁判官等の法曹が三段論法を用いて法的判断（推論）を行うことができるのは、「法律と神学は『成文法規』や『聖典』を真である第 1 原理として持ち、それをもとに様々な事象について演繹的な推論を行う。三段論法の大前提となる第一原理（真理）を示す書物の存在が、法技術原理の思考とその表現法を特徴づける」と記述されていることを読み取り、その具体例を自身の言葉で表現できること。

設問 4

- (1) 正解はア。 「人間ならば、命がある。」

イは、命題①の逆と命題②の逆を組み合わせたもので、逆は真ならずなので間違い。

ウは、命題②の逆で、真とは限らない。

エは、命題①の裏と命題②の裏を組み合わせたもので、真とは限らない。

オは、命題②の裏で、真とは限らない。

- (2) 間違っているのはウ。正しくは、①全ての楽しみは宿題ではない。②ある読書は宿題である。③よって、「ある」読書は楽しみではない。